

令和５年度 第１回旭市総合戦略推進委員会（次期総合戦略策定に向けて）

議事録【要約】

日時：令和５年７月２１日（金）１３：３０～１５：３０

場所：旭市役所４階 議会委員会室

○出席者

《委員》

鎌田 元弘 委員長	出	柳 明美 副委員長	出	千脇 俊秀 委員	出
横町 康博 委員	出	林 千夏 委員	出	伊藤 直美 委員	出
川村 崇 委員	出	奈良 暁子 委員	出	越川 健一 委員	出
斎藤 鋭夫 委員	出	香取 忠良 委員	出	宮内 夏子 委員	出
飯田 周作 委員	出	嶋田 明範 委員	出	加瀬 修一 委員	欠
花香 真菜 委員	出	西坂 重信 委員	出	水野 竜也 委員	出

《市長》米本 弥一郎

《事務局》旭市企画政策課：柴課長、齋藤副課長、江戸班長、白土、高木、来栖

《支援業務受注者》（株）ちばぎん総合研究所 小松、福田、大塚

○配布資料（事前配布）

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 資料１ 第２期旭市総合戦略について
- ・ 資料２ 次期（第３期）旭市総合戦略策定スケジュール案
- ・ 資料３-１ 市民アンケート調査票
- ・ 資料３-２ 若者世代アンケート調査票
- ・ 資料３-３ 事業所アンケート調査票
- ・ 資料３-４ 転入者アンケート調査票
- ・ 資料３-５ 転出者アンケート調査票

○ 会議内容

1 開会

- ・配布資料の確認
- ・欠席委員の報告

2 委嘱書の交付

3 市長あいさつ

4 委員紹介

- ・委員より自己紹介
- ・事務局紹介
- ・委員長及び副委員長の選出
→委員長に鎌田元弘委員 副委員長に柳明美委員が選出される。

5 説明

委員長：（１）第２期旭市総合戦略について、事務局からの説明をお願いします。

事務局：資料１ 第２期旭市総合戦略について説明

委員長：ご意見等ありましたらお願いします。

委員：旭市は合計特殊出生率が県内９位で、県内上位の流山市と印西市は、高齢化率としては非常に低い自治体だと思う。一宮町は旭市と高齢化率がほとんど変わらないが、出生率が高いということは、旭市の子育て支援策と差があるなど何かリサーチはしているか。

事務局：具体的には分かりません。政策的に何か突出してる部分があるのかというご指摘かと思いますが、旭市も子育て支援を手厚くしていますので、その差は無いと思っています。

委員：一宮町は、オリンピックのサーフィン会場にもなった。上総一ノ宮駅から東京まで特急で１時間、子育て世代でサーフィンをする人が住んでいる。子どもの数も増えていて、趣味と実益を兼ねて住んでいる方が多い。流山市は実家があり、少し前までは高齢化で、同級生も誰も地元に残ってなく、商店街はシャッター街になっていた。市長が変わり、つくばエクスプレスの開通により秋葉原まで３０分で行けることや、子育て支援もテレビ等で取り上げられている。保育所の送迎も全部無料など、そういった事で一気に増えた感じだと思う。旭市で戦略を立てる時に、流山市が参考になるかは分かりませんが、一宮町はエリア的に外房で海沿いの町なので参考になるのでは。

委員：人口が1980年から85年にかけては2,569人増えている。85年から90年にかけては1,826人、90年から95年にかけては1,582人、この時と今では何が違うのか。

事務局：まず人が減っていることもあるが、一番の違いは婚姻数の減少ではないか。人が増えるということは、生まれてくる子どもの数が多かったと思います。出生数も、平成10年と令和4年の差だけでも300人と半分になっている。昭和50年代であれば、単純に当時は小学校1クラス40人位いたが、学校の規模にもよるが複数クラスは絶対あったと思う。今は、ほとんどの小学校で1クラス、単純に昔と比べて何が違うとなれば、生まれてくる子どもが少なくなっていること。婚姻数も減少し、出生数も少なくなっている事が原因と考えられます。

委員：外国人の転入が増えている。外国人の研修生が住民登録していると思うのですが、飯岡地区でも、朝会う方は外国人ばかりというような話もある。これから一次産業が伸びて、もっと研修生が増えて人口が増えていく可能性はあると思う。そのあたり市はどのように考えているのか。また、外国人の方は選挙権が無いと思うが、どのような影響が出てくるのか。

事務局：外国人の転入者数が増えているのは、やはり労働力として増えているということになると思います。農家の方で、大きな所にしても、後継者不足や規模を拡大していく中で人手が足りない時に、どこから人手を持ってくるかという外国人というケースが多いのかと思う。やはり一次産業の後継者が不足してくるというのは、今に始まったことではなくて、以前から言われていることで解消できなかった。それが最近、外国人の労働力があることで少しずつ解消できている。また、市内に外国人が増えているという中で、やはり一般のコミュニティ、元々いた方と外国人の方が、働き口では話をするかもしれないが、地域に溶け込むことが、あまり出来ないと思います。これからは、もっと地域に接するような機会が増えていくことは必要だと思います。選挙権の話は、国で考えてもらうもので、市としての回答は控えます。

委員：コミュニティについて、移住・定住の相談を受けている中で、相談窓口外国人の方の相談が来る。市内事業所が、外国人の住む場所が無いから紹介してほしいという相談である。外国人の方が増えているという認識は皆さん持っていて、移住者交流会でも、外国人のコミュニティを作りたいという意見もある。観光物産協会の会議でも、やはり外国人のコミュニティをつくることや、受け入れるためには、どうしたら良いかの話が多い。是非そういったところを市と一緒に考えていけたらと感じている。

委員：県でもこの地域に限らず人口減少に対して、全県的に取り組んでいる。特に旭市を含めた海匠地区は、このデータからも人口減少が進んでいて、対策を考えていかなければいけない。そこで、市の独自推計と社人研推計の2つのデータが乖離していて、どちらかというと市の推計よりも、社人研推計の方に、近いというような話があった。また、出生数の推移、自然減の拡大、転入と転出の差はそれほど無いなど。旭市の出生率が高いという評価もある中で、今後、辿りそうだとされている社人研推移に寄りつつあるのが現状だとすれば、市の推計のあり方などを分析しているか。

事務局：市独自推計は、前提条件として仮定が2つあります。社人研推計は市がこのまま何もしない場合に人口が減っていくという推計である。しかし、市はそのままではなく、人口が減少しないように進めていく場合の市独自推計を出しました。その48,000人の目標を設定するための仮定が、合計特殊出生率を1.8と高めに見ています。実際は1.3ですので、ここで乖離が出ています。さらに合計特殊出生率を高めただけでは、まだ目標人口を達成しないため、そこを社会増減で差をなくすという見込みを立て、市の独自設計を出しています。そのため、社人研推計との差が出ている。市では色々な施策により合計特殊出生率を上げて、社会増減、できれば自然増減も増やして、人口を維持したいという期待を込めた数字です。

委員長：これからの計画に期待して、できれば市の推計に近い推移を辿れると良い。皆様のご質問で理解が一層深まったと思います。

委員長：（2）次期（第3期）旭市総合戦略策定スケジュール（案）について、事務局からの説明をお願いします。

事務局：資料2 次期（第3期）旭市総合戦略策定スケジュール（案）について説明

委員長：ご意見等ありましたらお願いします。

※意見、質疑等はなし

委員長：（3）市民アンケート等の実施について、事務局からの説明をお願いします。

事務局：資料3-1から3-5について説明

委員：私は第2期総合戦略策定の際にアンケートに答えた立場ですが、その時は第1期の最後の年にアンケートが送られてきたが、この結果が果たして第2期に反映されるのかなと思いながらアンケートに答えた記憶がある。今回は1年早くなってすごく良かったと思う。また、アンケートは紙が多いが、今回はWEBでも答えられるというのも良いことだと思う。あと、若者アンケートで特定の若い世代が1,000人ということだが、その世代の方は何人位いるのか調べると、15歳だと550人くらいで、3年間だと1,600人位なので大体3人に2人ぐらいにアンケートが届くことがわかった。そこで、3,000人にアンケートを送るが、年代を10代から80歳以上で丸をすところがあるが、無作為抽出で年代ごとに何人という設定をしているのか。あと外国人の方は対象になっているのか。

事務局：アンケートは、これまで計画期間の最後の年に実施していましたが、やはり反映できるのかということもあり、今回から1年早く実施しています。3,000人の年代別の内訳ですが、同年代ごとにほぼ同数が抽出されるようにしています。また、外国人の方は対象としていません。

委員：アンケート内容は充実しているので、しっかり答えていただけたら良い。前回アンケートの回収率は、どの程度だったのか。また、多くの人から回答を得られるように、先ほどの年代別もそうだが、回収率を上げるための手立て、対策は練られているのか。

事務局：前は、市民アンケートを 3,000 件発送して回収率は 38%です。若者アンケートも 31%で 3 割を超えている。回収率を高める方法として、年代が偏ってしまうが、今回から Web での回答もできるので比較的若い方でも回答しやすいのと、お年を召した方でも今はスマホを使っている方も多いので、紙に書いて投函するより回答はしやすくなっている。

委員：内容は非常に詳細で充実していて素晴らしいアンケートになっている。県でもこのようなアンケートを作ったというぐらい立派なアンケートだと思った。良いデータになると思う。3,000 人を無作為に選んだ市民アンケートの中に、旭市の未来を担う世代のアンケートも同封している場合がありますという記載があるが、年代別の話でもあった通り、3,000 人を無作為に抽出して若者が入っていない可能性があるが、3,000 人はある程度バランスを取って選んで、その中から若者の対象になる方々もある程度入れるような、そのようなやり方になるのか。

事務局：説明が不足していた部分がありますが、まず若者のアンケートの対象者として高校生を一度抽出をかけて、その世帯主に市民アンケートも同封して送ります。

委員：アンケートの始めに個別の調査結果は公表しませんという記載があるが、この委員会の中での公表はどうか。

事務局：アンケートの結果について、多かった意見など本委員会では、しっかり説明します。

委員：アンケート結果は、基本的に取り扱注意の資料になるが、この委員会での報告はお願いしたい。

事務局：アンケート記載の個別の調査結果というのはあくまでも個人が特定されるような公表はしないということで、取り纏めた結果は本委員会では報告します。

委員：アンケートの内容は素晴らしいと思う。若者向けのアンケートに就職を希望する業種を 3 つまで選ぶ質問があるが、第 2 期の総合戦略の中で、地域に留まりたいと思える魅力的な職業を創出していきましょうというのがあり、これから、デジタルのところを新しく加えていく中で、デジタル関連分野でいくと、例えばプログラマーとかエンジニアとかデザイナーとか、20～30 の職種があるが、それが選択肢の IT 関連に全部一纏めになっている認識でよいか。

事務局：そういった関連をまとめて 5 番の IT 関連ということで表示しています。

委員：若者向けアンケートの中で、ヤングケアラーの特定ができないような人もこれに回答してしまうのではないかと懸念している。家族の皆で介護している人も回答すると思う。

事務局：ヤングケアラーという言葉を出していない中で、自分がそういった人に当てはまるかどうかというのはすごく微妙な世界だと思います。悩みを抱えているとか、お世話をしているとか、ヤングケアラーに限定せずに、何かそういった状況を分析できればと思い質問しています。逆に市民アンケートではヤングケアラーという言葉を使っていますが、すごくデリケートな質問です。何か若者が抱えているものを、感じ取りたいと思います。

委員：アンケート内容は詳細に書かれていて、しっかり回答をもらえたら良い資料になる。ただ家に送られてきて、回答の時間を取れるかどうか。もっと回答率を上げることを考え、例えば、海でのイベントや産業まつりなど人が集まる時に、少し簡易版で本当に2～3分で回答できるものがあつた方が、色々な人の意見を集めることができると思う。

事務局：質問数については内部でも協議しました。市として細かなところまで知りたいところもある中で、回答する側が、最初からやる気がなくなってしまうという量では回答率が上がらない。そのバランスは気にしながら検討しました。

委員長：特に事業所アンケートは、これからの官民連携を進めていく上で大変新しい切り口で結果が楽しみです。市民意見交換会なども行われるので、アンケートで拾いきれない部分を意見交換会で色々と吸い上げることができると思う。

6 その他

委員長：その他何かあれば、事務局からの説明をお願いします。

事務局：次回の会議ですが、先ほどスケジュールでも少し説明させていただきました。10月の上旬を予定しています。開催日については、改めて通知をします。内容は令和4年度の総合戦略の進捗状況、施策の実績について皆様にご報告し、ご意見をいただきたいと思います。

7 閉会